

C-29 幾何構成に関する基礎的研究 第1報 交截展開曲線の特性について  
実践女大家政 平岡和香子

目的 原形作図法の基本は体形から得られる幾何近似的性格を把握することによってのみ得られる。したがって、その一例として袖ぐり線を考えると、胴部および袖部の形態特性、相貫条件によって交截展開曲線は一定の性格をもつはずである。すなわち、これら曲線の方程式の定数の傾向から性格を把握しようとするものである。

方法 人体を一応モデル化して、肩胸部を一葉双曲面の胴部に横向往て半截円錐を組込んだ形として、これに円筒袖を貫通し交截線を図学的に展開して作図し、これらの方程式を求めその定数の性格から袖ぐり線の形を推定する方法を用いた。

結果 胴と袖の相貫形式は、自動車前輪と同様に、キャンバー、カスター、トーインに相当する基本的な考え方をすることができ、これらの程度によって袖ぐり曲線形が変ってくることが分った。すなわち原形A、B、C方式がいつれもこれらの影響を受け作図形が異なってくることが分った。